

教員教育研究業績の様式です。作成の参考にして下さい。

教 員 氏 名	都 恩 珍	職 位	教授
最 終 学 歴	平成 15 年 3 月 博士課程満期退学		
学 位	修士（言語学）（筑波大学）		
役 職	学部長	委員会	
担 当 科 目	韓国語と文化、Seminar、海外語学実習 I（韓国）、韓国語コミュニケーション、韓国語プレゼンテーション、韓国留学準備講座		
作成した教科書・教材または教育方法の実践例 (主要 3 点)	・アクティブラーニングの一環として韓国の大学と実施する遠隔交流会を定期的に紹介し、参加を推進した。 ・「韓国語検定対策」を通して韓国語学習の成果を可視化することに力を入れた。その結果、TOPIK 受験への学生たちのモチベーションを向上させた。 ・「韓国留学準備講座」のために、ニュースや新聞記事、オンライン講義等の生のデータを教材化して活用した。 ・「韓国語プレゼンテーション」のために、様々な事例やテレビ CM 等のコンテンツを授業に取り入れ、受講生の実力向上に努めた。		
教育研究業績 (主要 5 点)	・日本国内に使用される韓国語教材における数詞提示の比較分析 <i>Journal of the faculty of Global Studies</i> Vol.2, 2026 , 39-47 ・韓国語教育に関する研究 (3) -韓国語学習にける内発的動機と学習意欲のメカニズム - 『桜花学園大学国際学部研究紀要』第 1 号 27-38、2025 年 3 月 ・『シニア世代のオンライン日本語学習支援活動』 <i>Journal of the School of Liberal Arts</i> Vol. 20, 2023 ・豊明中学校 教職員研修会報告「日本語の指導が必要な児童生徒」の日本語指導について『桜花学園大学観光総合研究所事業報告書』18 号 2023 ・韓国語教育に関する研究 (2) - 文字学習段階における初級学習者の誤用分析 - <i>Journal of the School of Liberal Arts</i> Vol.13, 2020 ・海外の日本語学習者に日本文化をどう教えるかーアクティブラーニングを取り入れた授業の試みー <i>Journal of the School of Liberal Arts</i> Vol.8, 2016		
所属学会 (主要 3 件)	日本語教育学会、国際韓国語教育学会、社会言語科学会、朝鮮学会		
社会的活動 (主要 3 件)	・財団法人日韓文化交流基金維持委員 ・認定 NPO 法人 プラス・エデュケート運営委員兼理事		